

岩 間 陽 子 教 授

専門分野：国際政治、欧州安全保障

学 位：博士（法学）、京都大学

略 歴：1986年京都大学法学部卒、1988年同大学院修士課程修了、1994年同大学院博士後期課程、助手等を経て、1998–2000年在ドイツ日本国大使館専門調査員、2000年本学助教授、2007年本学准教授、2009年本学教授。

1. 業 績 (A)

(1) 図 書 (分担執筆)

- * 森井裕一（編著）『ドイツの歴史を知るための50章』（明石書店、2016）36「再軍備と経済統合—西側世界における主権回復」pp.256–261.

(2) 雑誌論文 (単著)

- * 岩間陽子「アデナウアーと西ドイツの核保有問題」GRIPS Discussion Paper 16–19、pp.1–27、2016年10月
- * 岩間陽子『『ドイツ—強時代』の後に来るもの：動乱期を迎えた欧州』『外交』Vol.39、pp.116–121、2016年9月

2. 助成金等による研究

- * 科研費（基盤研究 B：25285053）「NATO における核共有・核協議制度の成立と運用」（2013–2016年度）研究代表者
 - 第9回定例研究会 5月14日（土）広島大学平和研究センター准教授友次晋介氏「ニクソン・フォード政権期の核不拡散政策と多国間濃縮・再処理構想—帝政イラン・日本・韓国・パキスタン」（詳細は、<http://natojp.blogspot.jp/p/seminar9.html>）
 - 第10回定例研究会 9月24日（土）北海道大学教授鈴木一人氏「欧州の原子力産業」（詳細は、<http://natojp.blogspot.jp/p/seminar10.html>）
- * GRIPS 平成28年度学術会議支援事業費「核の選択：冷戦下の原子力、核兵器と安全保障」代表
 - GRIPS/SISP 国際会議「NPT 締結前後の核・原子力の選択」（詳細は、<http://natojp.blogspot.jp/p/symposium.html>）、2017年3月1–2日

3. 教 育

(1) 講 義

- * International Relations (2016 Fall)
- * Advanced International Relations (2016 Fall)
- * International Relations in Europe (2016 Spring)

(2) 論文指導

- * Young Leaders Program：修士課程3名（主指導、うち2名学位取得）
- * 戦略研究プログラム：修士課程1名（副指導）
- * 政策プロフェSSIONナルプログラム：博士課程1名（副指導、学位取得）

- * 安全保障・国際問題プログラム：博士課程 10 名（主指導 5 名、副指導 5 名）

4. 管理・運営への関与

(1) 委員会

- * 図書館運営委員会
- * 安全保障・国際問題プログラム・コミティー
- * Young Leaders Program Committee
- * 戦略研究プログラム・コミティー
- * Maritime Safety and Security Policy Program Committee
- * One-year/Two-year Master's Program of Public Policy (MP1/MP2) Committee

(2) その他

- * 図書選定（政治グループ）
- * GRIPS - マンスフィールド財団合同セミナー（モデレーター、2016 年 5 月 18 日）

5. 社会的貢献（A）

(1) 国および地方公共団体における活動

- * 防衛省防衛政策懇談会委員
- * 法務省法制審議会委員

(2) 他大学・研究所等における活動

- * 財団法人平和・安全保障研究所研究員

(3) 学会等における活動

① 役員，委員

- * 国際安全保障学会監事

② その他

- * 日本国際政治学会会員
- * 日本政治学会会員
- * 日本 EU 学会会員
- * 日本防衛学会平成 28 年度秋季研究大会、部会 1「激動する欧州情勢」司会兼討論者（『防衛学会』第 56 号（2017 年 3 月）174 頁に報告掲載。）

6. 社会的貢献（B）

(1) ジャーナリズムを通じた発言

① 印刷メディア（新聞，雑誌等）

- * 書評：「私たちの個人情報はどこへ行くのか」、デイヴィッド・ライアン『スノーデン・ショック—民主主義にひそむ監視の脅威』（岩波書店、2016）、毎日新聞、2016 年 4 月 24 日
- * 寄稿：「行動目標なき理想主義 オバマ米大統領の広島演説」毎日新聞 2016 年 6 月 2 日
- * 書評：「没後二〇年に思い返す柔らかな知性」、五百旗頭眞・中西寛編『高坂正堯と戦後日本』（中央公論新社、2016）、毎日新聞、2016 年 6 月 26 日
- * 書評：「多くの才能結びつき、日本が変わる」、幸田真音『この日のために—池田勇人・東京五輪への軌跡 上・下』（KADOKAWA、2016）毎日新聞、2016 年 8 月 7 日

- * 「ゴジラ襲来！マモル国家安全保障会議を緊急招集せよ！！」、防衛省編集協力『MAMOR』2016年9月号 (vol.115)、扶桑社、pp.53-55.
 - * 寄稿：「NATO：英EU離脱、テロが揺さぶる NATO—ロシア、トルコ…難問に手腕問われる」、e-World Premium Vol.31、時事通信社、2016年8月
 - * 寄稿：「英国のEU離脱後の日英戦略対話拡大(Towards a wider Japan-UK Strategic Dialogue for Post-Brexit Era)」Japan in Their Own Words (JITOW) / 日本からの意見、日本英語交流連盟 (ESUJ)、2016年9月13日
 - * 書評：「日本の潜在力を生かす道」、北野充著『核拡散防止の比較政治』（ミネルヴァ書房、2016）毎日新聞、2016年9月25日
 - * 書評：「凍りついた日露関係は再び動き始めるか」、小泉悠著『プーチンの国家戦略』（東京堂出版、2016）、若宮啓文著『ドキュメント 北方領土問題の内幕』（筑摩選書、2016）、毎日新聞、2016年11月20日
 - * インタビュー：「論点：ポピュリズムと排外主義 労働力受容 摩擦の調整必要」毎日新聞2017年1月18日
 - * 書評：「アジア・沖縄から見るポスト冷戦」、宮城大蔵著『現代日本外交史』（中央公論新社、2016）、毎日新聞、2017年1月22日
 - * 寄稿：「排外主義の起こす摩擦に取り組むべし (We Must Mitigate the Frictions Caused by Xenophobia)」, Japan in Their Own Words (JITOW) / 日本からの意見、日本英語交流連盟 (ESUJ)、2017年3月3日
 - * 書評：「激動の時代と対峙した知性の記録」、ジョージ・F・ケナン著『ジョージ・F・ケナン回顧録 (全3巻)』（中央公論新社、2017）、毎日新聞、2017年3月19日
- (2) 講演会, 座談会, 会議出席
- * 出席・意見交換：コンラート・アデナウアー財団主催 “Understanding Recent Developments in North Korea: A Conversation with the German Ambassador in Pyongyang” 東京、2016年6月13日
 - * 出席・発表：“Japan and the First Chinese Nuclear Test, 1964,” King’s College London/Southampton Conference, Nuclear History, Charterhouse 2016, 2016年7月7-9日
 - * 講演：読売国際会議 2016 秋季フォーラム「鳴動する世界と日本の責務—英国 EU 離脱に揺れる国際社会」でビル・エモット氏、朝田照男氏と共に講演。2016年10月26日
 - * 司会 (セッション2)：国際安全保障フォーラム・イン東京 2016、GRIPS、2016年11月29日
 - * 出席：コンラート・アデナウアー財団主催ラウンドテーブル “The Future of Japan’s Foreign Relations”、東京、2016年11月30日
 - * 出席・発表：第14回日加安全保障シンポジウム Session III “Shifting dynamics of international engagement with Russia: impacts on security policies of Japan and Canada”、2016年12月12-13日
 - * 講演：第5回三菱・岡崎研究所の会「最近のヨーロッパ情勢について」2017年2月16日
 - * 講演：PHP・岡崎研究所の会「最近のヨーロッパ情勢について」2017年2月17日
 - * コメンテーター：Session 2 “Policies of V4 Countries on Migration Issues” Visegrad 4 Plus Japan Seminar 2017: Migration Issues in Central Europe and Japan’s Perspective、城西大学、2017年2月22日

- * 出席：German Marshall Fund's Brussels Forum、2017年3月23-25日
- * 出席：Round Table "Security concerns of the Post Truth era in Asia and in Europe" with Ms. Anne Marjaana SIPILÄINEN（フィンランド外務審議官）、GRIPS、2017年3月27日
- * 講演：(財) 平和・安全保障研究所 2016年度第11回月例研究会「ヨーロッパはどこへ行くのか」2017年3月31日